

MU・KU

DIYリフォーム情報誌 vol.2
2018. Spring



むく(無垢)とは混じりものの無いことで、もともとは、仏教用語で煩惱を離れてけがれの無いことといわれている。

加工食品の多い今日、家族の健康のため無農薬野菜や無添加食品を求める生活者が増えている。

住宅はどうであろう。人を包む内装仕上げ材料は、塩化ビニル壁紙や複合フローリングなど工業量産された建築材料商品(新建材)が多く使われており、これらは高分子化学に由来する添加物が多く使われているに違いない。

DIY型リフォームは住み手の想いで造る住まいのリノベであり、建築材料は木材や単層フローリングや漆喰など、できるだけ天然材料を使いMU・KUな住まいづくりを目指している。

Contents

02	【特集】 = 住まいと食でつくる暮らしの健康 =
04	エコリフォーム建材 [国産無垢材] [自然塗料]
05	活躍するDIYリフォームアドバイザー
06	ワークショップガイド
07	Close-up 民泊新法 DIYリフォーム補助金 適材適所 = 針葉樹と広葉樹 =
08	Topics Information

特集 ■ 住まいと食でつくる 暮らしの健康

スローフードとMUKUな住まい

スローフードは1980年代後半に「本物の料理をスローに食べよう」という運動としてイタリア北西ピエモンテ州の小さな町ブラから始まった。「マグドナルド」が出店することに対して起きた反対運動が原点といわれている。そのころ多くのレストランなどの外食産業が生産性と効率に走った結果、人々の食生活が低下し、イタリアの伝統的な食文化の豊かさが失われつつあることへの危機感が根底にあった。

ファーストフードによる食の画一化に対する危機感を背景に、1989年にNPOスローフード協会が設立され食材選び、調理法、食べ方について本来の自然の姿に立ち戻ろうというスローフード運動は瞬く間に世界各地に広がりみせた。舌を磨き、食材を厳選し、美味しいものはゆっくり作ってゆっくり食べようというコンセプトで、①食の源となる生物多様性を守る ②生産者と消費者を結ぶ ③味覚の教育の3つを活動の柱にしている。

ファーストフードの普及度とシックハウスの蔓延度は正比例すると云われている。今わが国では住まいも便利さと生産効率の優先から、輸入木材と大量生産された木質新建材やビニル壁紙などが多く使われ、換言すればプラスチックシートでラッピングされた住まいづくりになっている。ファーストフードで育った若者に味覚障害がみられるように、ビニル壁紙など新建材の住空間で暮らすと、住まいの感性(五感)が鈍る可能性が指摘される。

スローフードで食材の厳選が重要なように、健康的で心地よい住まいづくりのために建築材料の選択が必要な要素の一つとなる。大量生産による工業化材料を使い「均質化が美德」という商品化リフォームから、ほどほどの不便さのある無垢の木を使うDIY型リフォームによる素朴で人と地域と地球に優しい住まいづくりを勧めたい。DIY型リフォームとは、無垢の木と自然素材を用い、住み手の意志(意向)で行うリノベーション全般。木を活かして自分の手でものをつくる楽しさの普及で、MUKUな住まいづくり運動でもある。

特集 住まいと食でつくる暮らしの健康

「元気な野菜は、元気な土が育ててくれる」

有機栽培農家 どじょうや 新谷なつき

「どじょうや」の目指すところ

作物づくりの基本である「土づくり」を大切にしたいという思いから、「どじょうや」という屋号で主人と有機農業をしています。身近にある植物由来の有機物(落ち葉、糠、おから等)を利用した発酵肥料をつくり、土中の微生物が沢山・元気にいられる環境づくりに日々励んでいます。

根本の考え方は、化学農薬や化学肥料は一切使わず、“昔のあたり前農業”をお手本に「食べておいしい野菜・米」づくりを目指しています。

日々の農作業の中で野菜たちが自然の気候や草・虫の影響に翻弄されながらじっくり、力強く育っていく様子を見ていると「この野菜たちの一生を、まるごと食べてもらいたい」「今、旬の元気野菜を根も葉も土も食べてもらいたい」という思いが強くなり、定期宅配のお客様へ根っこや外葉もつけたまま、“どじょうや流”でお届けしています。



農地を見つけて移住し、有機農業へ

以前は街中で会社勤めをし、食べる専門の消費者だった私ですが、大学生時代から農業に興味があった主人が「有機農家」をやってみたくて言った時も、農地を見つけて田舎暮らしを始めることになった時も、迷うことなく大賛成でした。

日々の暮らしで、主人の農業を手伝ううちに、農家の大変さと共に楽しさ・喜びを実感し、私も3年前に会社を辞めて農家の世界に飛び込んでしまいました。

これからの展望

専業農家になり、田舎で百姓暮らしをしていると、昔の古き良き日本の「土間や囲炉裏」のある古民家の生活は理に適ったものなのだと感じます。天然素材を使った蔵や納屋は自然の吸湿作用や保温効果もあり、作物の保存にも適していたんだろうな…と。

自分たちの暮らしも、野菜たちのように「より自然に近いものへ」という思いは強くなり、今借りている古民家を、無垢の木材や珪藻土の土壁などを使って昔のありし姿を復活させられたら…と妄想を膨らませています。



どじょうや

〒739-0267

広島県東広島市志和町別府1516-5

TEL 070-6690-4129 FAX 082-401-2327

柿渋塗料

柿渋を原料としてつくられる柿渋は古くから木、紙、布など自然素材でつくられた生活具に、色調の魅力ばかりではなく、摩耗、腐食、防虫、防水機能などを目的に使われてきました。

柿渋は古来から無垢材への天然塗料としても使われていましたが、健康志向、自然素材志向ニーズの高まりとともに古民家再生やエコリフォームに使われるようになっていきます。

自然の赤褐色の色、艶、風合いなどが魅力で経年と共に色が濃くなり、塗るときに独特の匂いがありますが乾燥により数日で消えます。ソーダ灰の触媒液で色の安定化や匂いすることも可能。

柿渋西川本店

(京都市伏見区)

2ℓペットボトル入り

2500円

【みます柿渋】

三樹嘉七商店

(京都府木津川市)

1ℓタイプ

1500円



「自然栽培が教えてくれるコト」

NPO法人岡山県木村式自然栽培実行委員会
商品プロデューサー

浜本 京子

食品会社勤務だった私は、食料自給にも関心があった事から、奇跡のりんごで有名な木村秋則氏のりんご農園を一昨年夏に訪れ、実際に木村さんから自然栽培とそれにまつわる壮絶な人生、日本の農業実態を詳しく聴くことができました。

日本は「農業大国、化学肥料大国」である事、また農薬や硝酸態窒素が多く含まれる日本の作物は、オリンピックでは食材として使ってもらえていないという事実。日本の食は安全だと信じ切っていた私は正直驚きました。その農薬散布作業で、奥さまが体を壊し、苦しむ姿から救いたい一心で、自然栽培に辿り着いた木村氏。成功までの深い探求心と常軌を逸したような諦めない行動に、私はただならぬ必然さを覚えました。

木村式自然栽培とは「肥料、農薬、除草剤」を一切施さない農業。前例のないりんごの自然栽培は失敗続き。栽培開始7年目の夏の夜、精根尽き果てた木村さんは死を決意し岩木山に登ります。そこで生き活きとしたどんぐりの樹と、雑草に覆われたフカフカの土との出会い、そして気づきがりんごの自然栽培を11年目にして成功に導きました。大自然の循環的体系と営みに素直に任せ、人は手助けするだけ。生き方にも通じると思いました。

自然栽培の作物は免疫力や自然治癒力を高めるはず、と木村さんは確信を持って言います。実際に木村さんのりんごは何年経っても腐らざ枯れる姿を見るとそう思えるのです。

私は今、縁あって自然栽培8年目の岡山県の組織のお手伝いをしてますが、これはJAと一体となった取組みで、今や米の栽培農家は百軒を超え、収穫量も四千万俵余りに増えました。地球と人々の健康に寄与したいという本気度で共鳴しながらこの優しい自然栽培の作物が広がっていくことを真に願っています。



NPO法人
岡山県木村式自然栽培実行委員会

世界で初めて、肥料も農薬も除草剤も使わずに、りんご栽培に成功したりんご農家木村秋則さんを岡山県に招へいし、木村式自然栽培を米作りに応用した農業指導を受けながら、生産・流通を目指して、2010年に設立されたNPO法人を設立した団体



プロフィール 浜本 京子

広島県生まれ 広島市在住
銀行勤務後、食品会社に再就職 33年間
ブランディングやパッケージデザイン部門等に携わる。代表的商品に「皮むき甘栗ぱっくりりん」
取締役を歴任後、2017年に定年退職。
現在、NPO法人岡山県木村式自然栽培実行委員会で、商品プロデューサーとして活躍中

『木でつくる手』

遠藤敏明
小峰書店

自分で使うものを、自分の手でつくる。自然の素材を活かし、使うイメージを思い描いて、むずかしく考えなくていい。特別な才能もいらない。大切なのは、楽しく手を動かすこと。スウェーデンで木材工芸を学んだ著者が、いま子どもたちに伝えたい、ものづくりのこころを書き記した一冊

『食の位置づけ』

辰巳芳子
東京書籍

「食」と「いのち」の関わりをテーマに、考え続けてきた料理家が、食べることの「位置づけ」を問い直す。日本の食文化を踏まえて、暮らしの中でどのように実践するか、人は、何をどのように食べねばならぬか：辰巳芳子の生きた言葉が詰まった一冊

『辰巳芳子』

料理家・随筆家 料理研究家の草分けだった母、浜子の家庭料理を学ぶ
NPO「良い食材を伝える会」

会長

『食に生きて』『味覚日乗』『家庭料理のすがた』ほか多数

国産無垢材



DIYリフォームのキーワードに「自然材料」が挙げられます。
 自然材料に、無垢の木材や自然塗料などがあります。
 無垢のフローリングを張り、自然塗料を使いDIYリフォームを行うことで、健康的で快適なオンリーワンの住まいに変えることができます。
 国産・外国産の材木など幅広く取り扱っていらっしゃる(株)小城六右衛門商店の営業部長 一木崇憲さんにお話をお聞きしました。

木は大きく広葉樹と針葉樹に分類され、硬度・比重や熱伝導率の違いがあります。
 比重の小さい針葉樹は柔らかく傷がつきやすいという短所がありますが、逆に木材の大きな特徴である調湿機能に優れ、熱伝導率も小さいため、冬でも冷えにくくなります。
 長時間立ち仕事をするキッチンや、床の上にいる時間の長い子どもたちが過ごす空間は柔らかく温かく感じられる材料が良いのではないのでしょうか。

木材の香りは揮発性有機化合物(VOC)によるもので、フィトンチッドと呼ばれ、人体に様々な良い影響を与えたり、カビやダニの繁殖を抑制したりする成分を含んでいます。
 日本国内では多くの輸入フローリングが流通していますが、皆さんが国産材を利用することにより森林の整備が進み、土砂災害の防止にもつながります。また、海外から製品を運ぶより輸送エネルギーの削減にもなります。
 フローリングを選ぶ際は、実際にカットサンプルを入手して、香りを嗅ぎ、触れてみるとよいでしょう。

また、すべてにあてはまるわけではありませんが、節が少ない材や、厚みが厚く・巾広く長さが長くなるほど価格は高くなります。



杉・節あり



ひのき・節あり

注文は概ねケース単位になります。

混載便(小口便)では3mを超える材は運搬が難しいので都心部やマンションでは2mまでの製品を選んだほうが運搬・搬入が容易になります。

ネットや電話での注文も可能ですが、近くの材木屋さんに相談すると施工に関するアドバイスを頂けたり、搬入に便宜をはかってもらえる場合もあるかと思しますので、上手にお付き合いください。



明治5年創業 伝統を引継ぐ材木商
 (株)小城六右衛門商店
 広島県大竹市玖波2丁目7番3号 ☎ 0827-57-7001
<http://www.ogirokueemon.com>

自然塗料 『いろは』



特長

「いろは」は、日本古来の天然顔料から生みだされる美しい色にこだわりました。日本の風景によく似合う人にも環境にも優しい自然塗料です。植物油が浸透して、皮膜を作らないので木が呼吸し、木の温もりもそのまま感じられる仕上がりです。

成分

桐油、亜麻仁油、蜜蝋、ロジン、イソパラフィン
 無鉛乾燥剤、着色顔料(ベンガラ等)

用途

木部全般
 屋内:無垢フローリング、家具・建具、
 カウンター等
 屋外:ウッドデッキ、外壁、軒天、ログハウス等

サイズ

いろはカラー(全17色)
 いろはクリア(無色)
 いろは外部用クリア(無色・屋外専用)
 各 0.8L 3.5L 16L

入手方法

地域の建材店さん材木店さんにお問い合わせください。
 インターネット上でも販売されています。

アールジェイ株式会社
 広島市東区東蟹屋町6-5
 ☎ 082-261-9411
<https://www.rj-wax.com>

DIYリフォームアドバイザー資格認定講座 東京 会場 次回ご案内

入門講座	2018年4月10日(火)	10:00~16:00 HIPS東京校 定員:30名(先着順受付)
資格認定講座	2018年4月11日(水)	9:30~16:30 リファレンス西新宿大京ビル2F 定員:50名(先着順受付)

<受講生の声>

・身近に増えている空き家の有効的な活用ができたと思うし、少しでもその助けをしたい。
 ・営業として、お客様に新しい提案をしたい。



時が経つほど味が出る自然素材の魅力

川村 聡
アールジェイ株式会社



最近、ホームセンターの塗料コーナーの雰囲気がガラッと変わったのをご存じでしょうか。塗料缶のデザインがお洒落になり、サイズも小さく使いやすいものがたくさん出てきました。DIYを始めた女性にも男性にも手に取ってみたいくなる商品が並んでいます。しかし数ある商品の中から一体どの塗料を選べばいいのか、それがなかなかわからずに悩んでしまいます。DIYリフォームアドバイザー資格認定講座の公式テキストにもある通り、塗料は様々な視点で分類できます。水性か油性か。造膜性か浸透性か。天然樹脂系か合成樹脂系か。内部用か外部用か。用途、目的、素材、色、質感、成分、機能などをよく考えて、自分にぴったり合った塗料を見つけることが大事です。

私は元々住宅用のワックスやクリーナーを扱っておりました。建築現場に行くと材木屋さんや大工さんなど建築のプロとお話することがあり、そこで木のすばらしさを教えてもらいました。無垢の木は使うほどに時間が経つほどに木の風格が出てきます。これは木が生きているからであり、木の内部から自らを守る脂分がしみ出しているからです。この木が本来持つ素肌感や調湿性を保ちながら、木目を引き立たせ木を汚れにくく保護する国産の安全な塗料が作れないかと考え「自然塗料いろは」を開発しました。

今回、私がDIYリフォームアドバイザーの資格取得を考えたきっかけは、建築やリフォームの基礎知識や素材、工具、材料や資材などについて体系的に学び、それを当社に持ち帰り社員全体で基礎から学び直そうと思ったからです。なぜ塗料を塗るのか。お客様に対して塗料の専門家として適切なアドバイスができるよう心がけたい。用途や機能を伝えるだけでなく、塗装する楽しさまで伝えられるメーカーでありたいと思っています。

リビングひろしま第5回SHUFU-1グランプリ受賞
特技・趣味部門

平見 久美子



プロフィール

DIYリフォームアドバイザー
整理収納アドバイザー2級
美空間収納コンサルタント2級
広島カルチャーセンターDIY講師
DIY講師(イベント)

DIY型リフォームを始められたきっかけは・・・

建売住宅を購入して8年になりますが、生活していくなかで、こうすればもっと便利になるのに・・・という思いから奮起して、まずキッチンカウンターに棚を作ることに挑戦。



ツーバイフォーの木材を組み合わせて、収納棚でありながら、キッチンとダイニングを遮らない棚を作り、季節によってディスプレイを変え、楽しんでます。今では、カフェに行かなくても、ここでお茶を飲むことが癒しの時間になっています。



DIY型リフォームの魅力は

思い描いたものをプランして、自分の手で作り、そして暮らす・・・その過程を楽しみ、家族が喜ぶ姿を見ると、はまってしまう。空間が変わり、生活が変わることを体感すると、次から次へアイデアが湧いてきます。DIYリフォームをすることで、自分らしい暮らし、生き方を求めるようになりました。

ご愛用の工具セット拝見

工具はワインラックにあれこれ入れています。蓋は、板に取っ手を付けて作りました。3箱を段々に重ねると、場所も取らず、取り出しも簡単、いつでも使えるようリビングの片隅に置いています。工具セットがお気に入りだと、俄然、やる気もできます。できるだけ、おしゃれにしたいと思っています。



ご愛用の工具セット

今後の展望は

自然素材を使って、空間プロデュースの仕事をしたいです。まず、身近なところから。店舗や事務所等の空間もDIYリフォームをしてたくさんの方々に喜んで頂きたいです。

DIYリフォームアドバイザー資格認定講座 **広島** 会場 次回ご案内

入門講座	2018年7月24日(火)	10:00~16:00 広島商工会議所ビル 202号 定員:30名(先着順受付)
資格認定講座	2018年7月25日(水)	9:30~16:30 広島商工会議所ビル 202号 定員:50名(先着順受付)

<受講生の声>

- ・古民家の利活用に活かしたい
- ・空室改善のコンサルに活かしたいと思う。
- ・DIYリフォームへの意欲が湧いてきた



DIY型リフォームワークショップ

無垢と自然素材で創るDIY型リフォーム

DIY型リフォームワークショップは、実践技術を磨く場として多彩なプログラムが予定されています。
ホームページにて開催案内の内容を確認してください。

入門講座受講者及びDIY型リフォームアドバイザー®資格認定講座受講者は、様々なDIY型リフォームワークショップ(DIY型リフォーム研究会企画)に参加することが出来ます。

info@juu-kyoiku.com

ワークショップメニュー

- ①DIY型リフォーム事例見学・研修
- ②塗り壁の実践
- ③三和土(たたき)の実践
- ④木材加工の実践
- ⑤壁塗料の実践
- ⑥床の再生(フローリングの張り方)
- ⑦壁紙の貼り方
- ⑧モザイクタイルの貼り方
- ⑨大工道具の選び方・使い方・研ぎ方
- ⑩電動道具の選び方・使い方
- ⑪古民家再生
- ⑫棚の取り付け方 etc

Work shop 事例紹介 ■DIY型リフォーム事例見学・研修 ■

DIY型リフォーム事例を見学しながらその施工方法や仕上げ、木材の基礎知識について学び、無垢材や自然素材による居住性を体感しましょう。

座学で学んだDIY型リフォームに関する知識だけでは、DIY型リフォーム工事の第一歩をなかなか踏み出さないものです。

ワークショップで体験学習する前に、実践事例(DIY型リフォーム例やセルフビルド施工事例)を体感学習することで、どのような材料を使うのか、施工の手順や必要な道具類、仕上げの方法などがイメージできます。



茶の間を大工さんに石膏ボード下地まで造ってもらい、施主がセルフビルドで、石膏ボード下地に目地処理をして、シーラーなど下地処理と湿式塗り壁(ミュール)を金ゴテで塗ったもの



3尺間隔の床張り間に張られた天井ボード(エコボード)下地に、セルフビルドでエマルジョンペイント塗りとし、塗料はターナー色彩のエコ水性ペイントのワサビ色をローラー塗装しています



プラスチック製の手摺や集成材の丸棒にポリウレタン塗装がされた手摺は握り手の感触が悪いが、自然木や古材の天秤棒、和舟のオールなどを手摺とDIYで取り付けると階段の昇降が楽しくなります。

Work shop 次回ご案内 ■木材加工の実践 ■

杉の小幅板を使って、多目的に使える木箱を作ります。

作業を通じて木の特徴を学び、木工道具の使い方を学びます。

2018年 4月18日(水) 13:30~16:00



Work shop 次回ご案内 ■木材塗料の実践 ■

無垢の床や外装を自然塗装研修。

傷んだ無垢床や木部外装を塗装再生していく方策を学びます。

2018年 5月18日(金) 13:30~16:00



Work shop 次回ご案内 ■三和土の実践 ■

古民家には欠かせない土間の三和土づくりを体験し、その知識や施工のコツを習得します。

2018年 6月2日(土) 13:30~17:00



Work shop 次回ご案内 ■DIY型リフォーム事例研修 ■

無垢と自然素材施工事例を見学体感し、施工方法や仕上げ材について学びます。今回の研修テーマは、無垢の国産床材です。

2018年 6月20日(水) 9:30~12:00



- 場 所 広島市安佐南区安東
- 参加費 3000円
- 定 員 10名(先着順受付)
- 最少催行人員 5名

- お申込み 一般社団法人住環境教育協会
- TEL 082-241-5707 FAX 082-241-5645
- HP <http://www.juu-kyoiku.com>
- ワークショップのサイトからお申込みください

民泊新法

民泊新法とは「住宅宿泊事業法」のことで、2018年6月15日から施行され、住居専用地域の個人住宅でも簡単に許可民泊が始められる法律です。民泊にはDIY型リフォームの手法が有効でDIYリフォームアドバイザーには新しいビジネスモデルがとれる可能性があると思われます。

一般の住宅に宿泊客を有料で泊める際の営業基準を定めた法律で、家主は都道府県など自治体に届け出れば、年間180日を上限に営業できるようになっています。

これまでの旅館業法による簡易宿泊所では都道府県に申請し許可が必要ですが営業日数上限はありません。民泊には家主がその施設に住んでいるか、住んでいないかを区別し家主居住型（ホームステイ）、家主不在型があり表にすると下記の通りです。

	旅館業法	民泊新法	
	簡易宿所	家主居住型	家主不在型
行政への申告	許可	届け出	届け出
宿泊日数制限	なし	なし	なし
営業日数上限	なし	180日	180日
居室の床面積	3.3平方メートル	なし	なし
住居専用地域での営業	禁止	可能	可能

開業の届け出で済む民泊の場合でも家主には民泊住宅と分かる標識の掲示や宿泊者名簿の作成を求められています。民泊事業の詳細は国土交通省観光庁が平成29年12月に公表した民泊新法ガイドライン(住宅宿泊事業法施行要領)で解釈や留意事項を取りまとめており、実際に事業を進めていく上での指針となります。

その主な内容は次のとおりです。

- ① 住宅の図面は「手書き」でもOK
- ② 「住宅」とは1棟の建物である必要はない
- ③ 「浴室」には浴槽がなくてもシャワーがあればOK
- ④ シーツやカバーなどの交換は必須
- ⑤ 本人確認は「対面」もしくは「ICT(情報通信技術)活用」の方法でも可
- ⑥ 周辺住民への説明は「望ましい」、苦情は深夜を問わず対応が必要
- ⑦ 家主同居で50㎡以下なら非常用照明設備器具の設置は不要
- ⑧ 居住履歴のない「民泊専用の新築投資用マンション」はNG

詳しくは住宅宿泊事業法施行要領を確認してください。

民泊とするか簡易宿泊所営業とするかは、目的や規模により異なると思われると思います。

呉市が「空き家バンクDIYリフォーム補助事業」実施

広島県呉市は、平成29年4月、空き家の利活用及び賃貸流通の促進を図るため、DIY型賃貸借の周知・普及を目的に「呉市空き家バンクDIYリフォーム補助事業」をスタートさせました。

同市の空き家バンクに登録されているDIYが可能な賃貸物件を借主がDIYリフォームする場合にリフォーム対象経費の一部を助成するというもので、この助成事業を推進することにより地域の活性化に繋げようという狙いもあります。

空き家バンクに登録されている物件のリフォーム補助制度は全国各地の市町に有りますが、DIY型賃貸借普及を目的の一つに掲げている自治体は珍しいようです。



リフォーム経費補助の対象工事は「対象判定表」として示されていますが、特徴的なのは「DIYリフォームに使用する材料は環境等にやさしい製品を使用すること」という注釈が付けられていることです。(例として、『塗料や壁紙等には、F☆☆☆☆(エフフォースター)製品を使用する』とあります)

このような呉市の取り組みとその姿勢は高く評価されるべきものと思われると思います。

同市の担当者によると、29年度の補助対象事業は3件実施され30年度も継続、5件分の予算が組まれています。事業の詳細は同市ホームページで確認できます。

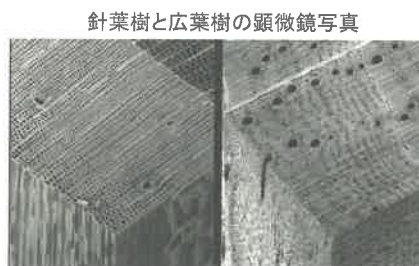
URL: www.city.kure.lg.jp/soshiki/46/

窓口は、呉市住宅政策課定住サポートセンター
電話0823-25-3394 です。

適材適所 Vol.2

針葉樹と広葉樹

国産木材は針葉樹と広葉樹に大別され、針葉樹はソフトウッドとも呼ばれ、軽くて柔らかく木肌が滑らかで無塗装で使われます。主な樹種はスギ、ヒノキ、アカマツ、トドマツ、ツガ、ヒバ、モミ、サワラなどで成長が早く森林の6割を占めています。スギ・ヒノキは和室の造作材や建具などに適し、マツは柱や梁などの構造材などに多用されてきました。スギとヒノキの人工林の多くが伐期を迎えており、供給量も拡大しおり、加工しやすく香りも良く木肌が滑らかで材なので無垢材を仕上げ材に使うDIYリフォームに積極的に使いたい材料です。



針葉樹

広葉樹

広葉樹はハードウッドともよばれ、重くて硬い樹種が多く、導管が現れるので木肌は一般的に荒い樹種が多く塗装仕上げで美しくなります。主な樹種はケヤキ、ナラ、サクラ、クリ、ブナ、シオジ、クスノキなどがあり、針葉樹に比べ加工は技術を要しますが洋風建築の造作材やフローリングによく使われ、硬く強度の高い樹種は家具に使われています。

古民家にはケヤキやクリなど多く使われているので古材を使ったDIYリフォームや家具作りに再生活用も楽しいものです。

DIY型リフォームについての記事が中国新聞に掲載されました

中国新聞 2018年(平成30年)3月21日(水曜日)

のに価値を見いだす欧州の住文化に共感を覚えた。いまわが国は、高度経済成長期に建てられた住宅ストックの空き家問題に直面し、都市部の空き家はかりでなく、中山間地域の古民家などの空き家も増え続けている。リタイア後、数年前から空き家問題と其の活用に関わるようになった。その解決策の糸口として「DIY型リフォーム」の普及が必要と

1970年代から欧州諸国の建築などを訪ねるうちに、わが国との違いをいくつか気づかされた。わが国が建設ラッシュのころ、欧州の建築家たちの主な仕事は建物の再生やまちづくりで、自ら参画して倉庫や古いビル、古民家などをオフィスや店舗、住宅などに改修していた。住宅では、わが国が機能・性能・コストを最重要視し、建築材料と住宅生産の工業化をま

想
DIY型リフォーム

金堀 一郎

進んでいたころ、欧州では主婦がラゲやタペストリーなどを縫い機で縫って飾り、窓辺はグリーンやワインドトリーメントなどで演出し、住み手の感性を手づくりで自ら表現する暮らしの文化が伝承されていた。工業生産された均質な建材を好み、より便利なるを求めるわが国の住宅と異なり、古材や無垢の木、天然素材を擁する

強く感じるところである。DIY型リフォームとは無垢の木と自然素材用い、住み手の意志(意図)で行うリノベーションの普及を担う人材育成のために「DIY型リフォームアドバイザー」の資格制度を創設し、広島で全国各地に広げていきたいとの強い思いにかき立てられて

われ、計画的に植樹されてきた人工林資源(杉、ひのき)が充実し、年々伐期を迎えている。木を使うことは、山と地域と地球環境に貢献する。DIY型リフォームは木を生かす、自分の手でものをつくる楽しさの普及でもある。人と地球の健康づくりにつなげ、国産木材の活用や空き家の再生に一役買いたい。

「NPO住環境デザイン協会顧問」(工学博士)

広島でDIYリフォームアドバイザー資格認定講座を開催

DIYリフォームアドバイザー資格認定講座が2018年2月14日(水)に実施されました。広島で2回目の開催となる講座ですが、前回は上回る約70名が受講、認定試験に臨みました。

入門講座では、グリッドを利用した平面図の描き方で、初めてフリーハンドで線を描いた方も多かったようです。設計図がなくなったり、古民家などは設計図が存在していないこともあります。ご自分で簡単な図面が描けると、リフォームがイメージしやすいのではないのでしょうか。



トソー出版よりDIYテキスト 発売中

DIYリフォームアドバイザー資格認定講座の公式テキストがトソー出版から平成30年1月25日に新刊発売中です。

体裁はB5版オールカラーの320頁、定価3,000円+税

内容はDIY型リフォームに必要な基礎知識が網羅され、3部構成で第1部<基礎編>、第2部<実践編>、第3部<資料編>。

第1部の基礎編はDIY型リフォーム入門講座対応のテキストにも使用され、住宅の構造と下地の基礎知識、リフォーム材料の基礎知識、寸法の基礎知識、DIY型リフォームの基礎知識の4章で構成。

第2部の実践編はDIY型リフォームアドバイザー資格認定講座対応の公式テキストで、DIY型賃貸、道具・工具の基礎知識、DIYに使う材料と資材、DIY型リフォームの実践、住宅メンテナンスの基礎知識の5章で構成。

第3部の資料編は国土交通省の「DIY型賃貸借ガイドライン」「インスペクションガイドライン」とDIY型リフォーム用語集となっています。

DIY型リフォームに関する幅広い基礎知識とDIY型リフォームの先進国の事例等も満載されており、DIY型リフォームアドバイザー資格取得を目標とされる方ばかりではなく、お住まいを無垢材や自然素材を多く使い、より快適な住空間をつくりたい方には必読の書籍です。



Information



スマート木のちりとり

木目が細かいスマート木の美しさくらつマンの感性が響き渡った製品は使うほどに愛着が湧き、未永く付き合える一品

製作
株式会社 サカモト
鳥取県八頭郡智頭町大字山根520-1
<http://woodymind.com/>

DIYリフォーム情報誌「MU-KU」では、DIYリフォームに関する情報をお待ちしております。

問い合わせ先・お送り先
info@juu-kyoiku.com

MU-KU
DIYリフォーム情報誌 Vol. 2
2018. Spring
2018年4月1日発行(年4回発行)
発行人 若菜幸子
編集 吉田恵子

<発行> 一般社団法人住環境教育協会
広島市中区大手町2-5-11
NPO法人住環境デザイン協会内 〒730-0051

TEL 082-241-5707 e-mail info@juu-kyoiku.com
FAX 082-241-5645 URL www.juu-kyoiku.com